



関口 和男 議員

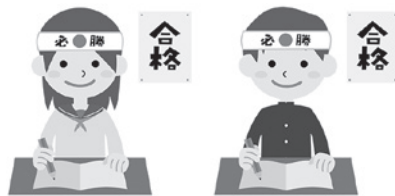


公立高校併願制について

問 ①政府検討案の概要を伺う。②生徒や保護者からの意見、要望等を集約しているか伺う。③生徒にとって高校受験は進路を大きく左右するものである。現行の単願制度は過大なプレッシャーを与えることもあり、併願制がうまく確立できれば、生徒の未来を大きく広げられると考えるが、所見を伺う。

答 ①複数の公立高校への出願

を可能にし、入試結果や志望順位に基づき、デジタル技術を使ってその生徒に最適な1校を割り当てるものである。②公立高校併願制はまだ実施されていないため、要望等は集約していない。③メリットとして受験機会の拡大、心理的負担の軽減があるが、デメリットとして安心感からの学習意欲低下、高校の序列化が進むことが考えられる。今後の国や県の動向を注視し、生徒にとってより良い進路選択の環境が整うよう努める。



児童、生徒の個人情報の管理について

問 ①本年1月19日、他の自治体で高校生の個人情報流出があったようだが、概要を伺う。②本市では児童生徒の個人情報をどのように管理しているか伺う。③今後の対応、所見を伺う。

答 ①北海道の高等学校教諭が消費者金融業者から借り入れする際、生徒など38人分の個人情報を流出させた。②各校で個人情報取扱規定を定め、流出防止を図っている。③教職員に対する個人情報保護に関する研修の充実など、継続的な指導を行う。個人情報の安全確保と、保護者や地域から信頼される教育環境の維持に努めたい。



佐々木 英徳 議員



教職員の働き方改革について

問 ①教職員の長時間勤務と人手不足が深刻化し、教職離れも進んでいる。こうした状況を踏まえ、国は学校業務を三つに分類し、外部支援の活用や業務削減を進めている。全国でも保護者対応の外部化やICT支援員、校務助手の配置など、負担軽減の取り組みが広がっている。本市での取り組みについて伺う。②教育の中心は常に子どもたちである。子どもたちが安心して

学び、挑戦し、成長できる学校をつくるためには、学校・行政・教育委員会・保護者・地域が一体となって子どもを育て“共育”の精神が必要である。未来を担う宝の子どもたちのために、より良い教育環境を築くことを強く願う。

答 ①教職員の働き方改革をさらに推進するため、令和8年2月に古河市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画を策定した。この計画は令和8年度から令和10年度までを計画期間とし、1カ月の時間外勤務は45時間以内とすること、職場内の健康リスク値を80以下とすることを達成目標としている。この目標を着実に達成できるよう、先進事例

等も参考にし、取り組んでいく。②市で策定した計画について、単に計画とすることなく、市全体の目標感として示したので、各学校において、令和8年度の学校経営計画にこの数字を達成するための具体的な指針を入れ込むようにする。教師の笑顔が子どもたちの笑顔をつくる、この考えの下、学校、家庭、地域が手を取り合い、学校が担うべき役割と地域で支えるべき役割を分かち合って、子どもたちを社会全体で育てることができるよう、働き方改革をさらに進める。



出典：政府広報オンライン
「新しい時代の教育のために。
『学校の働き方改革』が進められています！」